

令和8年度「一般選抜後期日程試験（教科・科目に係る個別テスト等・小論文）」講評

後期小論文課題における出題の意図

本学では「英語のコミュニケーション能力のさらなる向上とともに、異文化に対する理解力や対応力の習得に意欲を持つ人」および「地域社会のみならず、広く国際社会の課題の探求と解決に、主体的に取り組む姿勢を持つ人」を求めている。こうした求める学生像（アドミッション・ポリシー）に基づいて、異文化に対する理解力や対応力の習得に対する意欲や、地域社会の持続可能性という課題の探求と解決に主体的に取り組む姿勢を持っているかどうかを、関係人口という一種の異文化との間で共生する社会の実現によって探求・解決する意欲や姿勢を持つかどうかを見ることを通じて、受験生に問うた。

提示した資料は、関係人口の定義・分類および概念形成の歴史的背景、そして地域課題解決のために具体的にどのような影響を及ぼしているのかについて説明している。

課題1では、関係人口が生まれた歴史的背景を捉えたうえで、受験生の直面する従来の生活の維持に支障をきたすような地域課題について整理するよう求めた。課題2では、関係人口の定義・分類やどのような影響を及ぼしているのかをテキストから正確に読み取った上で、課題1の整理を踏まえて、従来の生活の維持に支障をきたすような地域課題に対して、関係人口など地域外の多様な人材とどのように力を合わせて課題解決に主体的に取り組もうとしているのか、受験生の意欲や姿勢を問うたものである。

課題1の評価ポイント

課題1では、地域課題がどのように生じ、それがどのように従来の生活の維持に支障をきたすような影響を与えているのか受験生の住んでいる地域を例に具体的に説明できるかどうかで評価した。受験生の多くは、少子高齢化、人口減少、若者流出、後継者不足、災害などが与える影響を取り上げて課題に適切に答えていた。

課題2の評価ポイント

課題2では、課題1を踏まえているかどうか、関係人口について理解しているかどうか、そして受験生が地域外の関係人口に対して具体的にどのように向き合っていくのか、関係人口との間で生まれる新たな課題も想定した上で、自身の経験や考えを示しながら記述できているかどうかを評価した。残念ながら、受験生の多くの答えは、こうしたポイントを次のように踏まえていないものであった。まず、課題1が十分に踏まえられていなかった。課題1の内容を踏まえ課題2を記述しようとしたために、地域の生活が維持できないという危機感を棚に上げた答えが目立った。この危機感の無さにより、多くの答案中において、差し迫った課題解決のためには地域外の関係人口との共生を真剣に考えなければならないという姿勢が見て取れない答案にとどまったと想定される。次に、問題文中の関係人口について十分理解されていなかった。関係人口4分類それぞれに基づくならば多様な答えが想定されたが、関係人口を単なる移住者と見なして議論した答案が多かったことから論理展開が単調な答案が多く見て取れた。たとえば、この単調さから関係人口との間で生まれる新たな課題について、地域住民と移住者との間で生じる課題の提起にとどまってしまう答案が多

かった。この課題提起では関係人口の多様な在り方と必ずしも相容れるものではない。一方で、課題1を踏まえ、関係人口の多様性を理解した上で具体的に論じた答えは、高い評価を得るとともに他の答えと差をつける結果となった。このように、受験生は問題文の内容および課題文の文脈を正確に読み取った上で、自らの経験や考えなど説得的な根拠に基づいて、的確な論理展開で主張する力を身に付けてほしい。